

岡山県感染症週報 2017年 第29週 (7月17日～7月23日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2017年 第29週 (7/17～7/23) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第27週	5類感染症	梅毒	1名 (30代 男)
第28週	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (70代 男)
		梅毒	4名 (20代 男 2名、30代 男 2名)
第29週	2類感染症	結核	2名 (60代 女 1名、70代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O157: 30代 女)
	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名 (50代 女)
		梅毒	2名 (10代 女 1名、30代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- 手足口病は、県全体で579名 (定点あたり10.74 → 10.72人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- ヘルパンギーナは、県全体で126名 (定点あたり2.19 → 2.33人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で57名 (定点あたり1.41 → 1.06人) の報告があり、前週より減少しました。

【第30週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 60代 女) の発生がありました。(7月27日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第29週に1名の報告があり、2017年第29週まで(～7/23)の累計報告数は15名となりました。岡山県では「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、7～8月は最も発生が多くなる時期です。この季節は細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **手足口病**は、県全体で579名 (定点あたり10.74 → 10.72人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、倉敷市(14.73人)、美作地域(13.33人)、岡山市(12.64人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域を除く全ての地域で発生レベル3が継続しています。県内の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **ヘルパンギーナ**は、県全体で126名 (定点あたり2.19 → 2.33人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、真庭地域(4.00人)、倉敷市(3.64人)、岡山市(2.64人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国の第28週(7/10～7/16)の発生状況は、定点あたり報告数が2.24人であり、第19週(5/8～5/14)以降、増加がつづいています。都道府県別では、山口県(7.54人)、大分県(6.56人)、佐賀県(6.39人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、西日本を中心に流行しています。この感染症は、例年7～8月頃が流行のピークとなりますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。
4. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で57名 (定点あたり1.41 → 1.06人) の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市(1.36人)、美作地域(1.33人)、備中地域(1.29人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌(イチゴのように赤くブツブツしている舌)がみられることがあります。のどの痛みがひどい場合は、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけてください。就学前から学童期の小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★★★★	伝染性紅斑	➡	
突発性発疹	➡	★★	百日咳	➡	★
ヘルパンギーナ	➡	★★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡	★	クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 発生状況：今週の流行状況を過去5年と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

夏休みに海外へ渡航される方へ

夏休みに海外へ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。

旅行中の注意

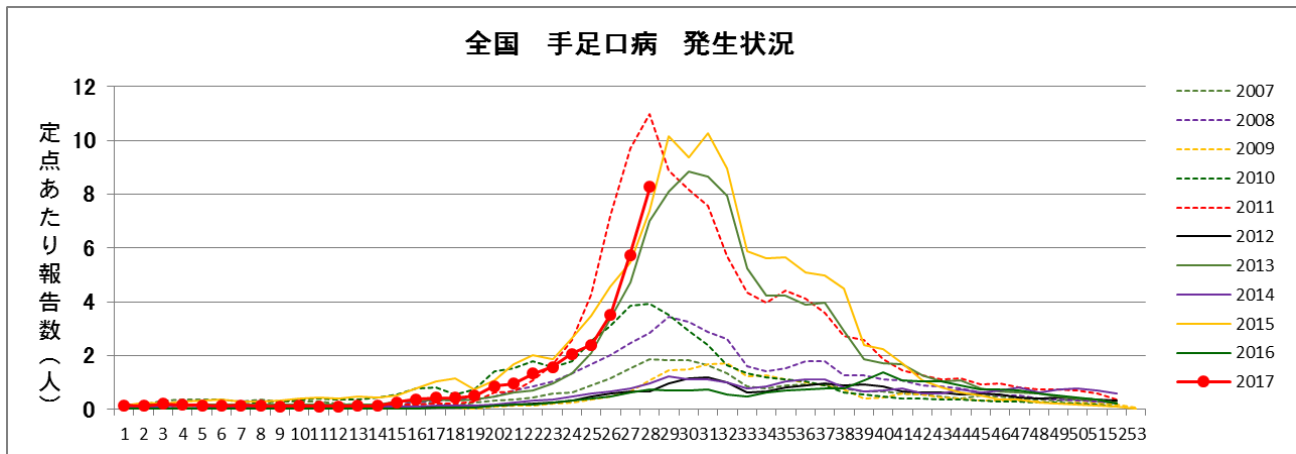
- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの乳など、火が通っていないものを食べることは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスを持っていることがあります。）
- ・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

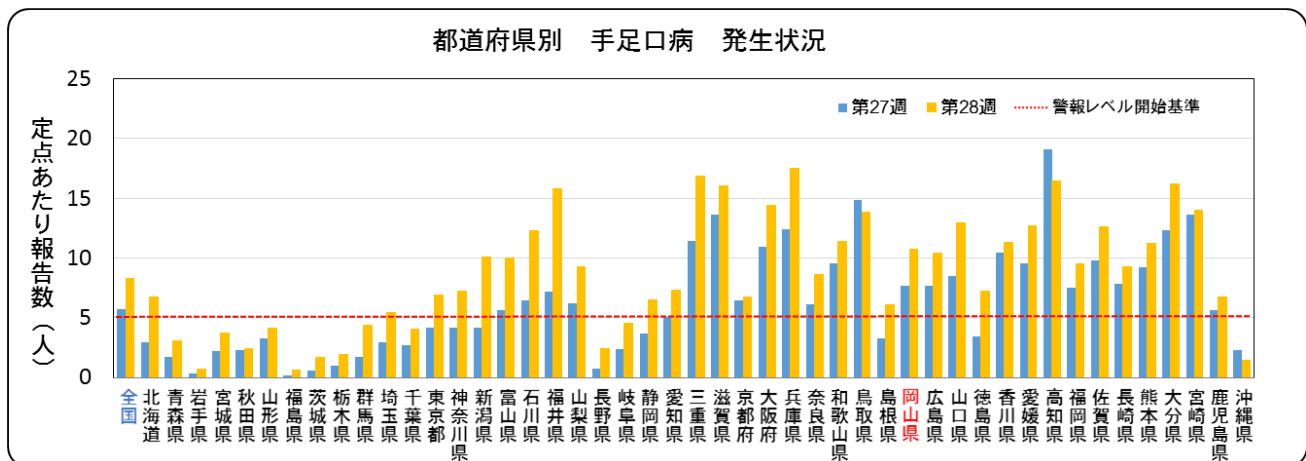
[夏休みに海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所）](#)
[夏休み期間中における海外での感染症予防について（厚生労働省）](#)

【全国の発生状況】



全国の第28週（7/10～7/16）の発生状況は、定点あたり報告数が8.27人であり、第15週（4/10～4/16）以降、増加がつづいています。都道府県別では、兵庫県（17.47人）、三重県（16.87人）、高知県（16.47人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、34都道府県で警報レベル（定点あたり5.00人）を越えました。西日本を中心に流行していますが、東日本でも増加しています。

2017年7月21日までに報告された全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルスA6型（56%）が最も多く、次いでエンテロウイルス71型（7%）、コクサッキーウイルスA16型（6%）となっています。



[IDWR 速報データ 2017年第28週（国立感染症研究所）](#)

[IDWR 2017年第23号<注目すべき感染症> 手足口病\(国立感染症研究所\)](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。症状は、3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎や脳炎などを起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系の合併症など、重症化する割合が高いと言われています。患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

[手足口病に関するQ&A（厚生労働省）](#)

手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。

- ◆ どちらの感染症も、特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。口の中に水疱ができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。
- ◆ 保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがいや手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防に努めましょう。
- ◆ 通常、予後は良好な感染症ですが、まれに重症化することがあります。お子さんの状態に注意し、症状が悪化した場合は早めに医療機関を受診しましょう。

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

今般、体調不良（発熱、衰弱等）が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液、ふん便から重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスが検出された事例が報告されました。また、体調不良の野良ネコに咬まれたヒトが SFTS を発症し、死亡した事例が確認されました。

これらの事例は、稀な事例ではありますが、SFTS を含めた動物からヒトへ伝播する感染症を防ぐため、野生動物との接触は避け、動物に触った後は、必ず手洗いをするなど感染予防に努めましょう。

[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に係る注意喚起について\(厚生労働省\)](#)



フタトゲチマダニ
岡山県環境保健センター

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、SFTS や日本紅斑熱、つづが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋（3～11月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【野外で活動する際の予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を使用しましょう。（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

【動物と触れ合う際の予防のポイント】

- ◎屋内のみで飼育されている動物については、感染のおそれはありませんが、過剰な触れ合い（キスや口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝ることなど）は控えましょう。
- ◎動物に触ったら必ず手洗い等をしましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。ダニがついていたときは、動物用のダニ駆除剤等で適切に駆除しましょう。
- ◎飼育している動物の健康状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、ビニール袋などに入れて、保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。
- ◎体調不良の動物と接触後、体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診してください。受診する際は、動物の健康状態や接触状況についても伝えてください。

[ダニ媒介感染症（厚生労働省）](#)

[マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)

[マダニに注意！（岡山県チラシ）](#)

[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2017年 29週(定点把握)

(2017/07/17~2017/07/23)

2017年7月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	11	0.13	2	0.09	9	0.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	0.11	-	-	1	0.09	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	17	1.21	15	1.36	4	0.40	9	1.29	4	1.00	-	-	8	1.33
感染性胃腸炎	302	5.59	81	5.79	90	8.18	59	5.90	13	1.86	19	4.75	2	1.00	38	6.33
水痘	27	0.50	12	0.86	6	0.55	6	0.60	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
手足口病	579	10.72	177	12.64	162	14.73	90	9.00	44	6.29	9	2.25	17	8.50	80	13.33
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	22	0.41	12	0.86	4	0.36	2	0.20	1	0.14	1	0.25	1	0.50	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	126	2.33	37	2.64	40	3.64	18	1.80	11	1.57	2	0.50	8	4.00	10	1.67
流行性耳下腺炎	19	0.35	11	0.79	5	0.45	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	16	1.33	5	1.00	2	0.50	3	3.00	6	6.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 29週(発生レベル設定疾患)

(2017/07/17~2017/07/23)

2017年7月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	11	0.13	2	0.09	9	0.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	0.11	-	-	1	0.09	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	17	1.21	15	1.36	4	0.40	9	1.29	4	1.00	-	-	8	1.33
感染性胃腸炎	302	5.59	81	5.79	90	8.18	59	5.90	13	1.86	19	4.75	2	1.00	38	6.33
水痘	27	0.50	12	0.86	6	0.55	6	0.60	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
手足口病	579	10.72	177	12.64	162	14.73	90	9.00	44	6.29	9	2.25	17	8.50	80	13.33
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	126	2.33	37	2.64	40	3.64	18	1.80	11	1.57	2	0.50	8	4.00	10	1.67
流行性耳下腺炎	19	0.35	11	0.79	5	0.45	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	16	1.33	5	1.00	2	0.50	3	3.00	6	6.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第29週 2017/07/17~2017/07/23)

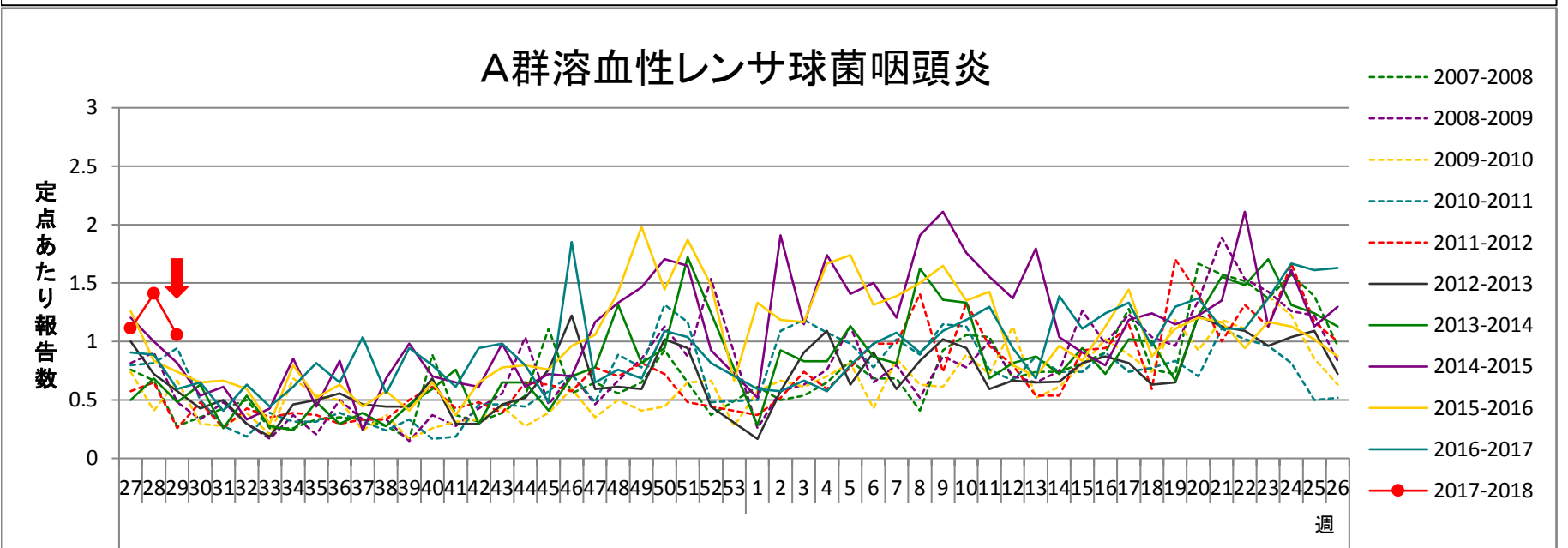
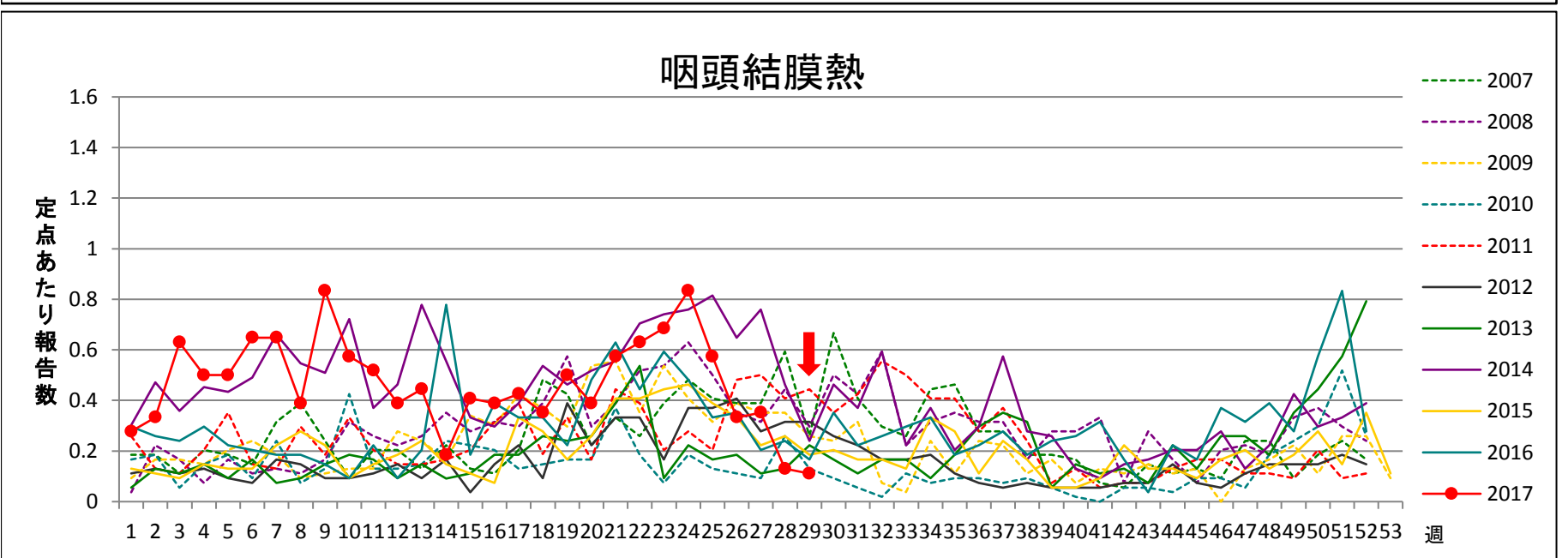
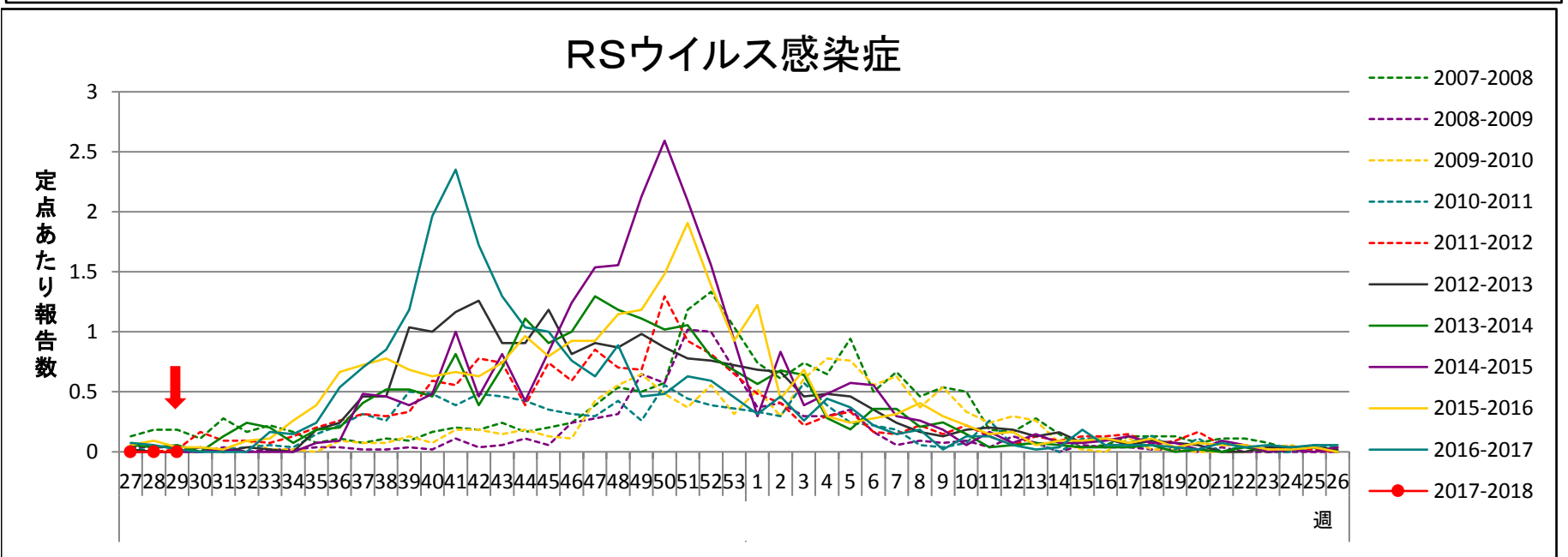
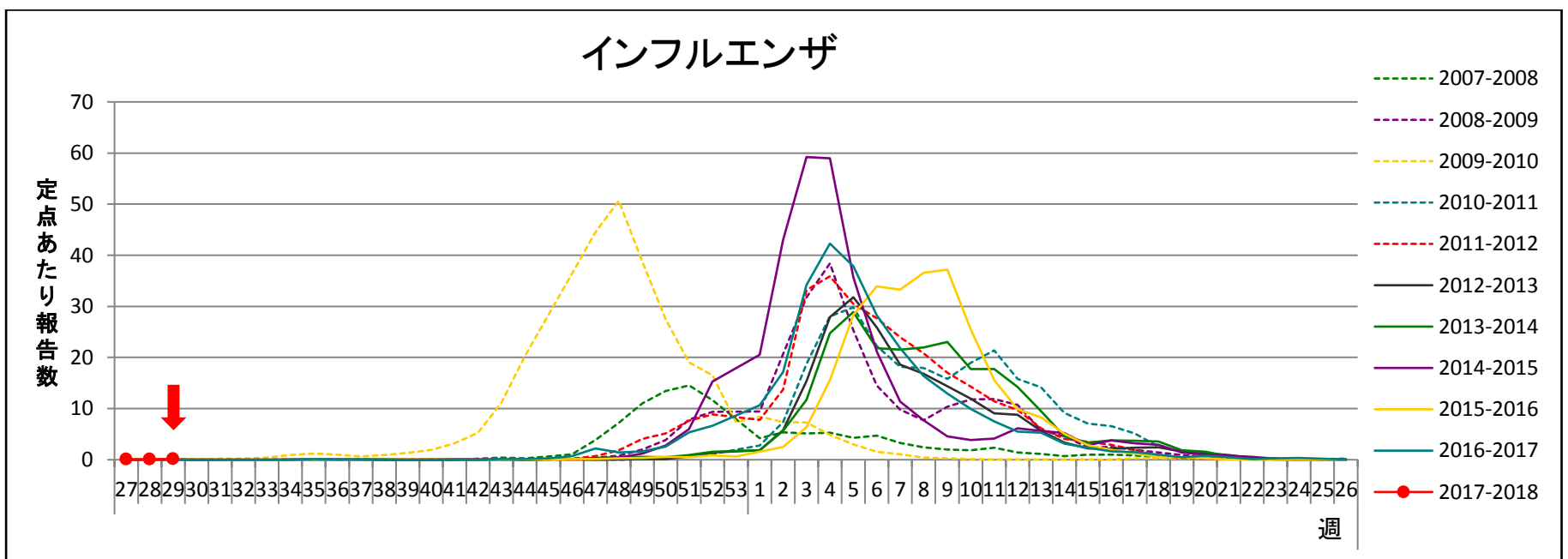
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	11	-	-	-	-	-	-	-	3	3	2	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	-	-	3	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	-	1	4	3	4	5	13	5	2	5	2	3	1	9
感染性胃腸炎	302	3	31	65	32	28	29	20	16	10	11	6	19	6	26
水痘	27	-	3	6	1	2	2	3	1	2	1	1	5	-	-
手足口病	579	7	67	196	104	65	50	34	18	13	6	5	4	1	9
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	22	1	9	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	126	-	16	29	22	23	18	8	2	3	2	1	2	-	-
流行性耳下腺炎	19	-	-	-	2	2	4	5	2	1	-	1	2	-	-

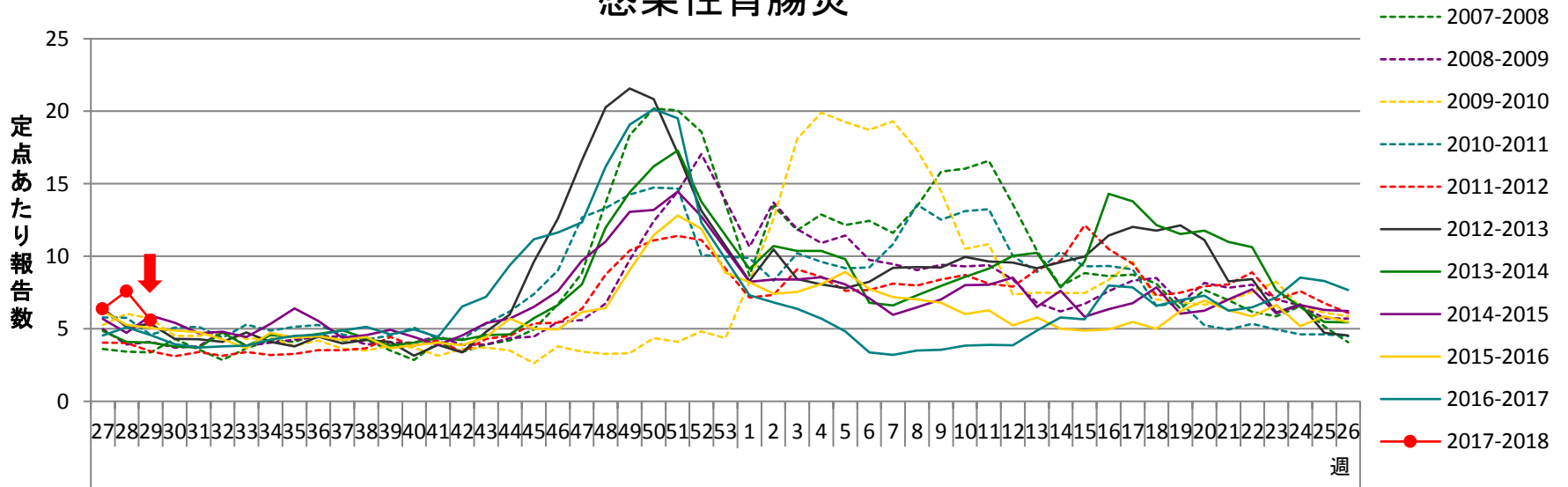
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	16	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	5	3	4	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

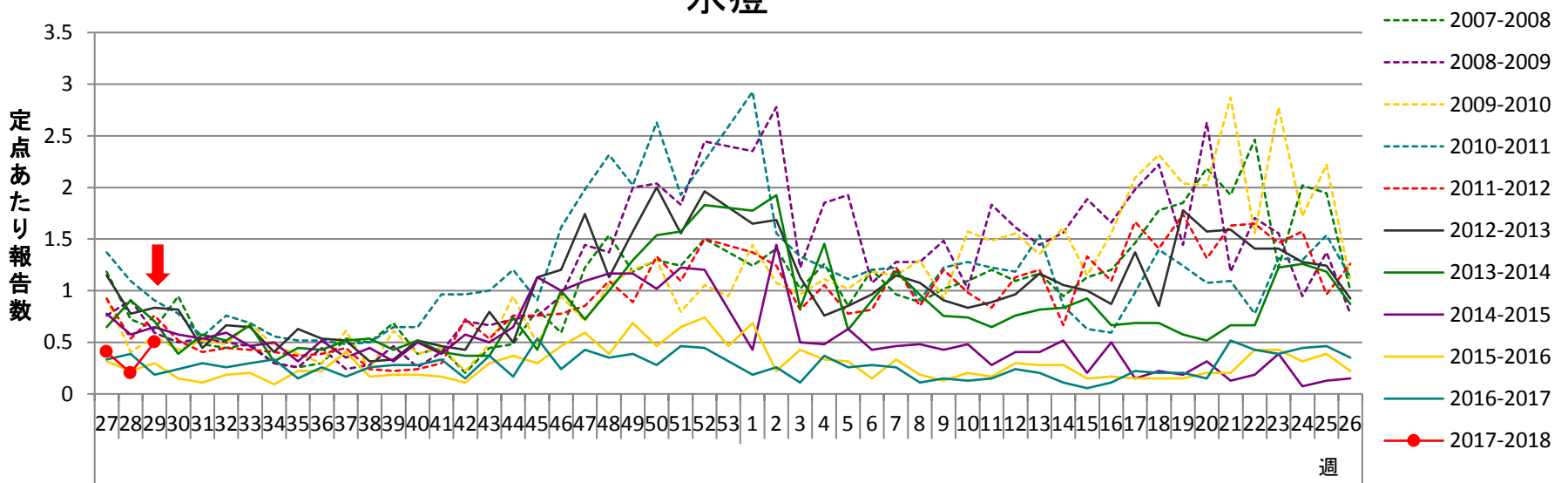
(- : 0)



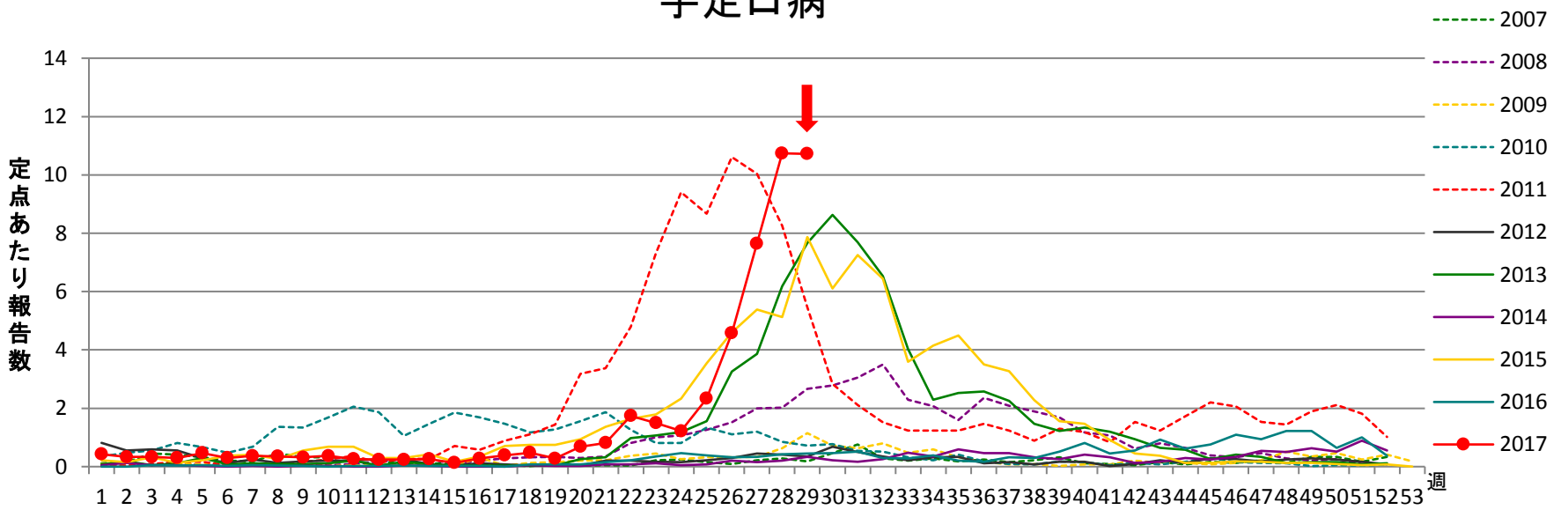
感染性胃腸炎



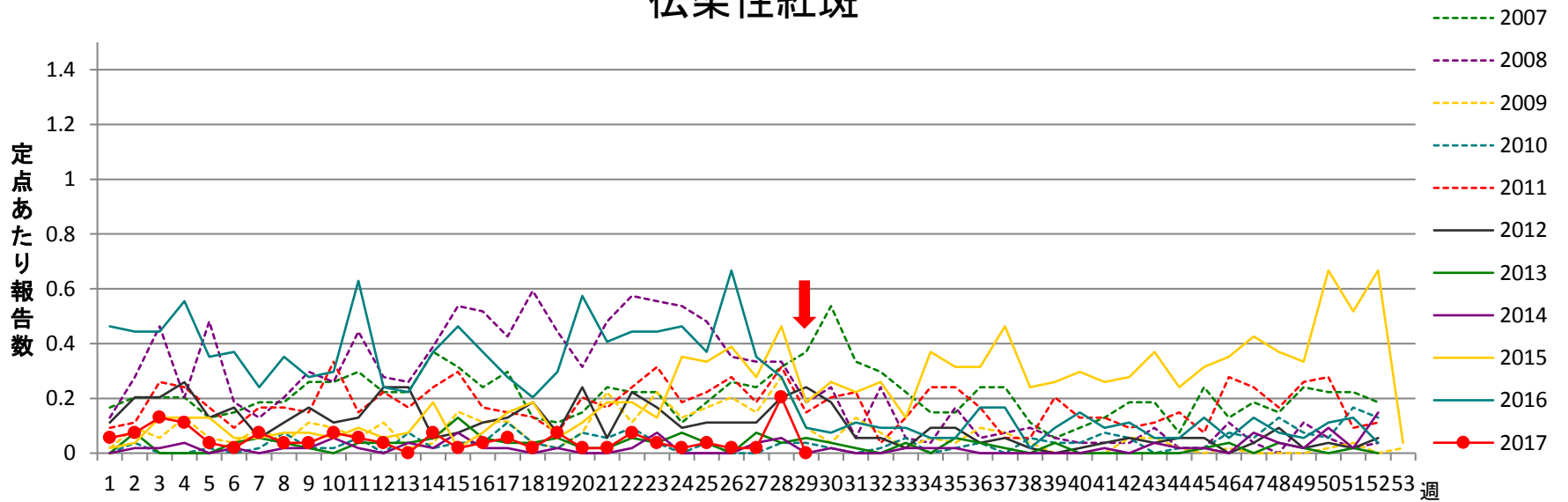
水痘



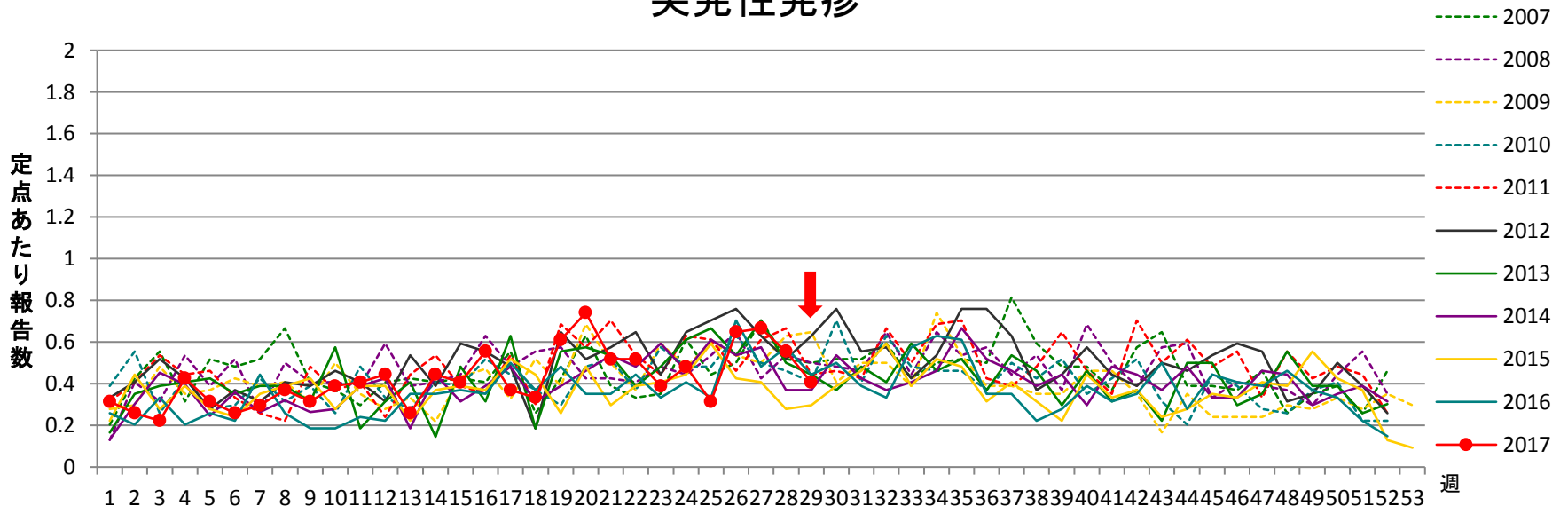
手足口病



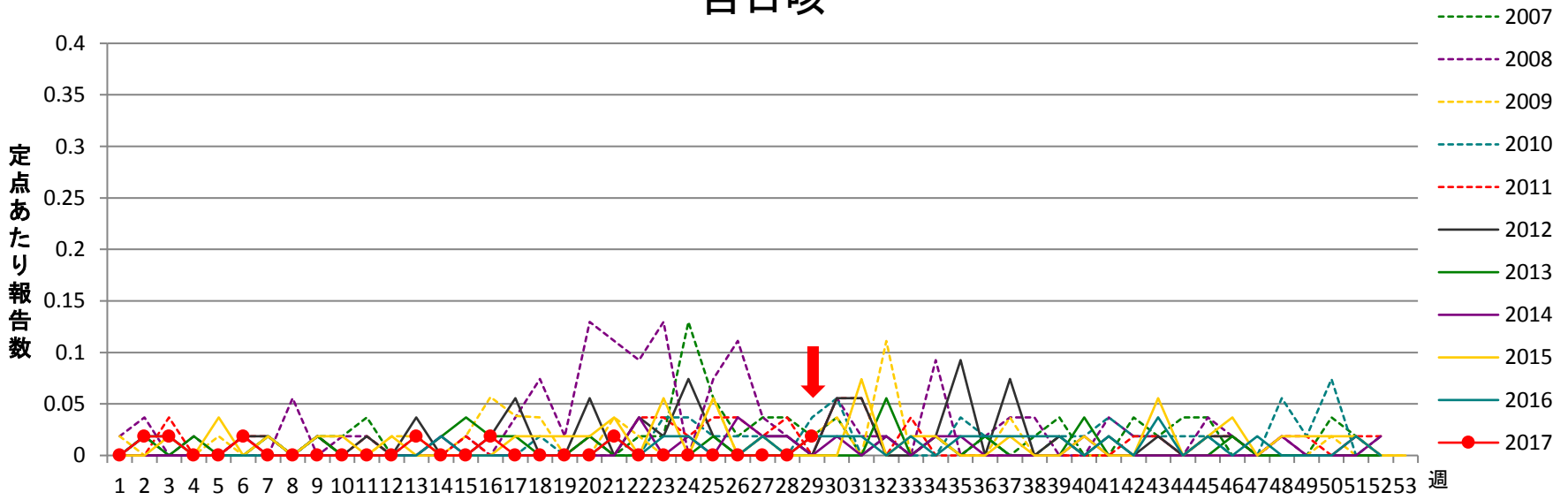
伝染性紅斑



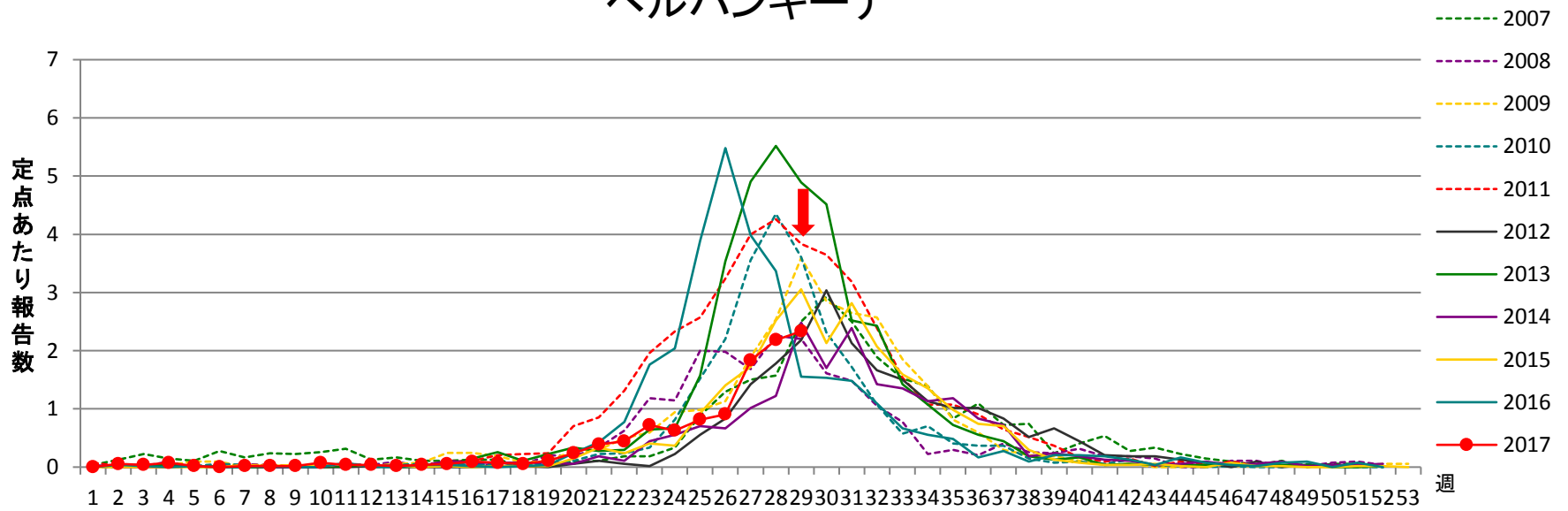
突発性発疹



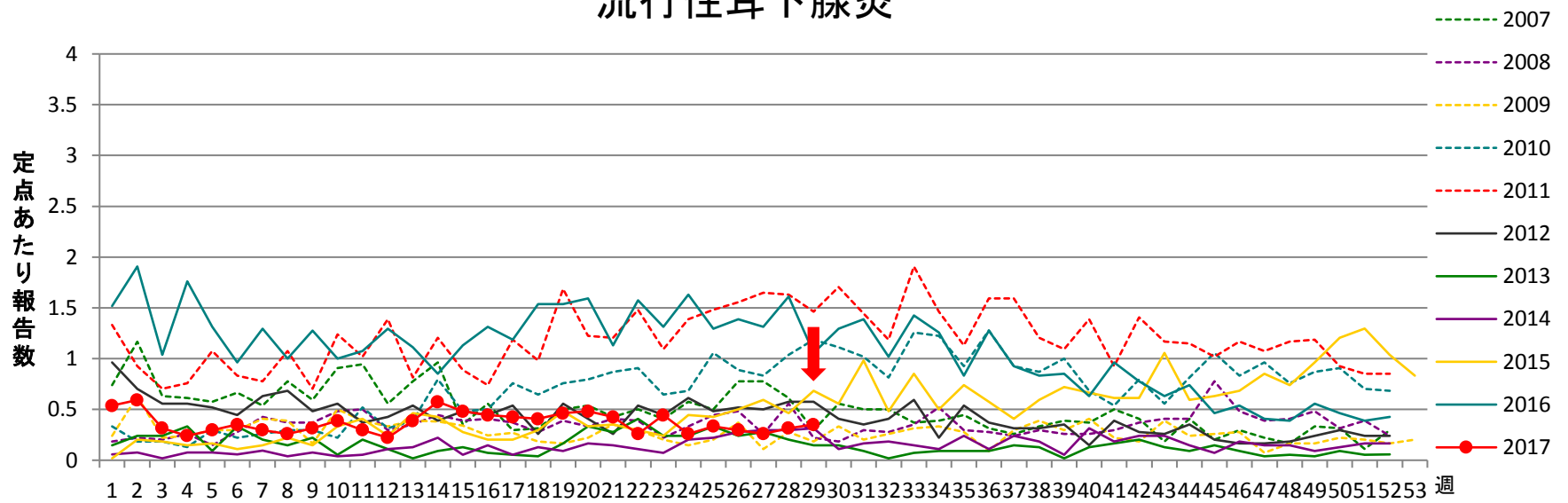
百日咳



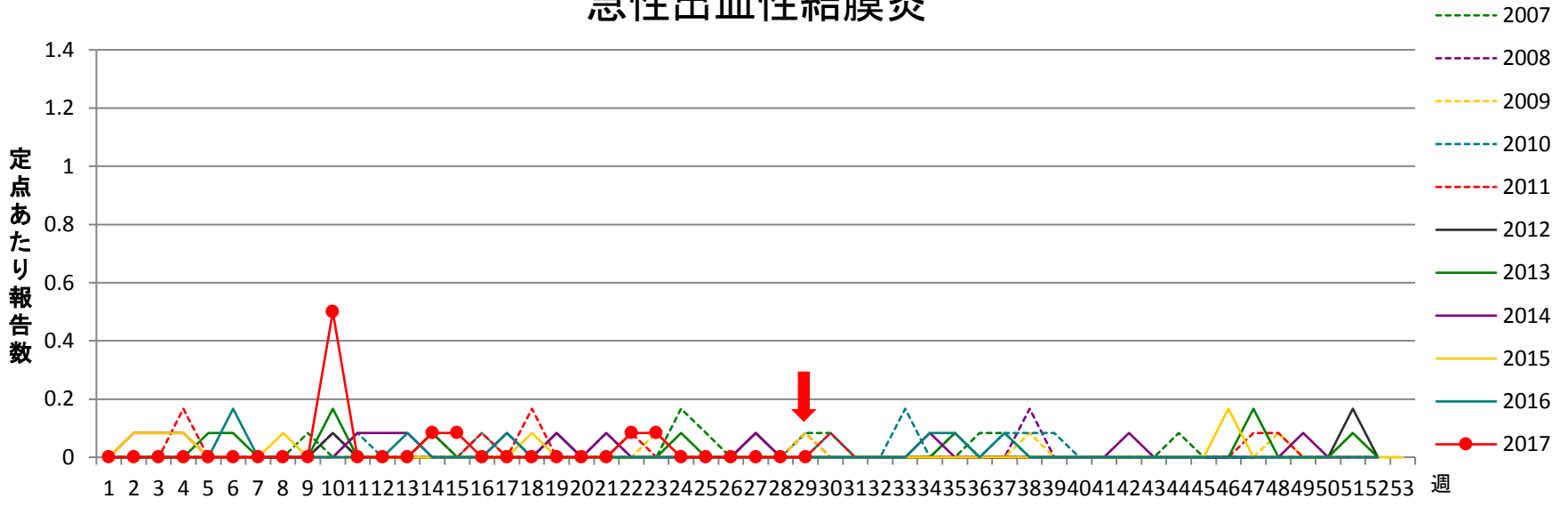
ヘルパンギーナ



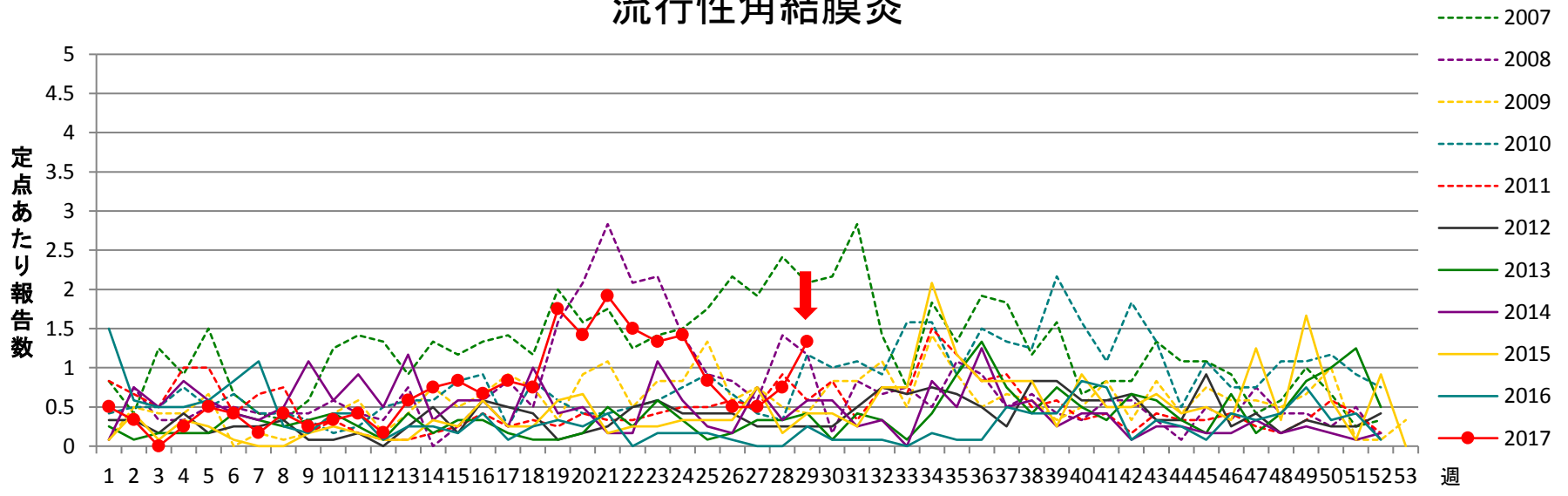
流行性耳下腺炎



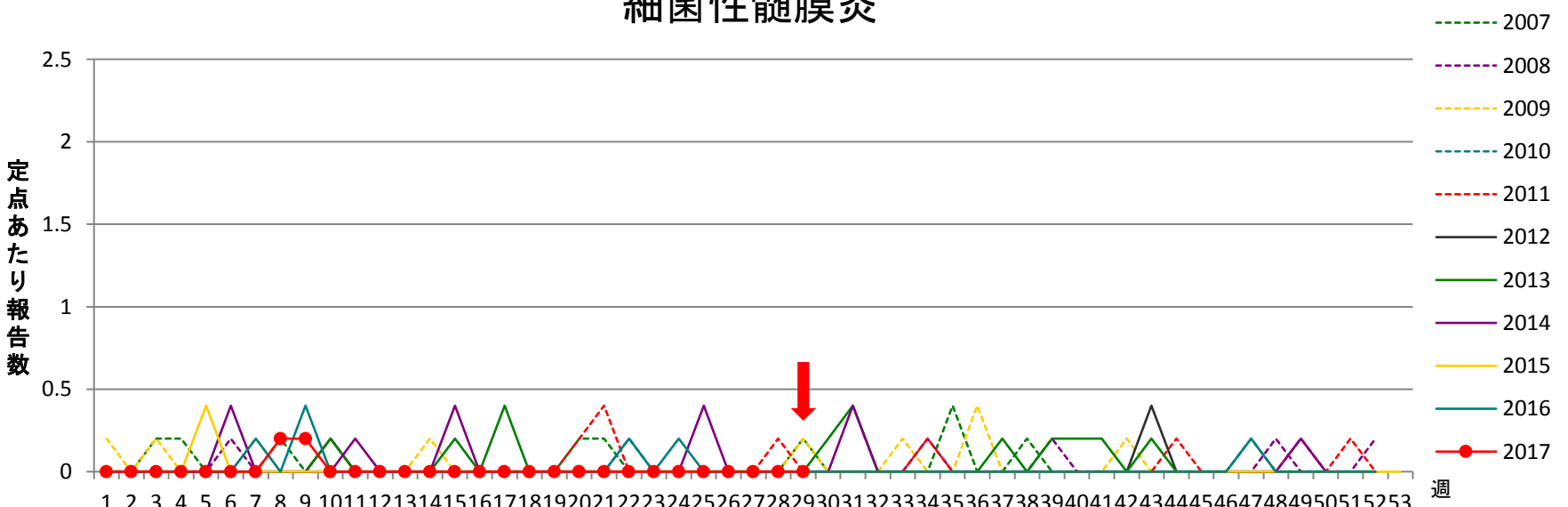
急性出血性結膜炎



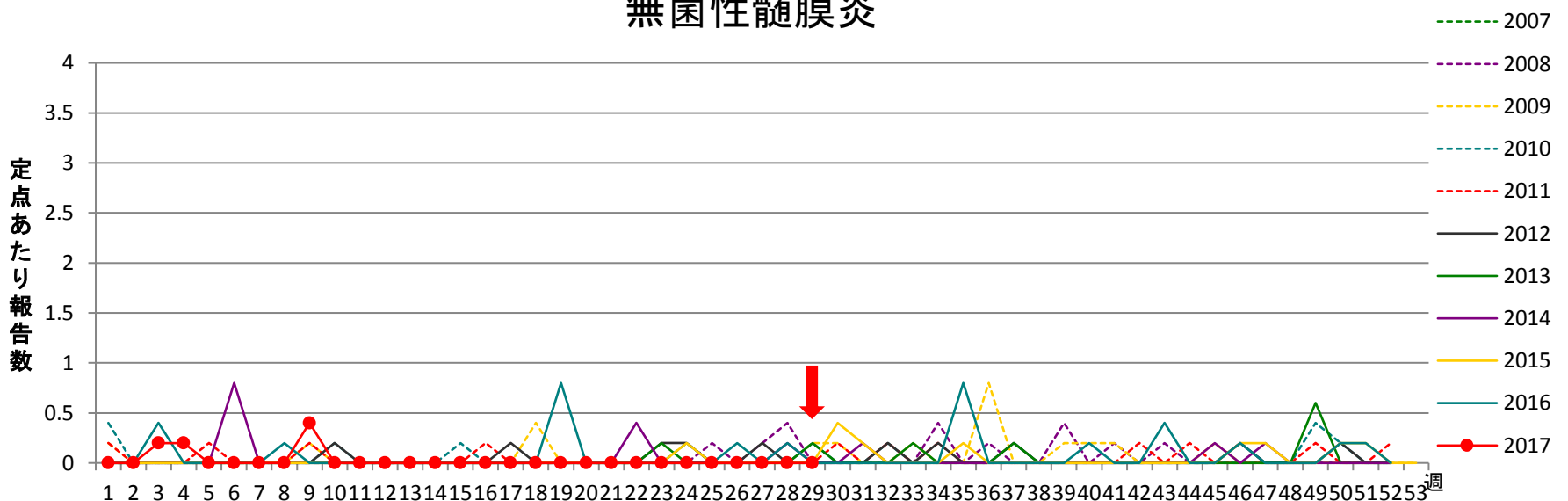
流行性角結膜炎



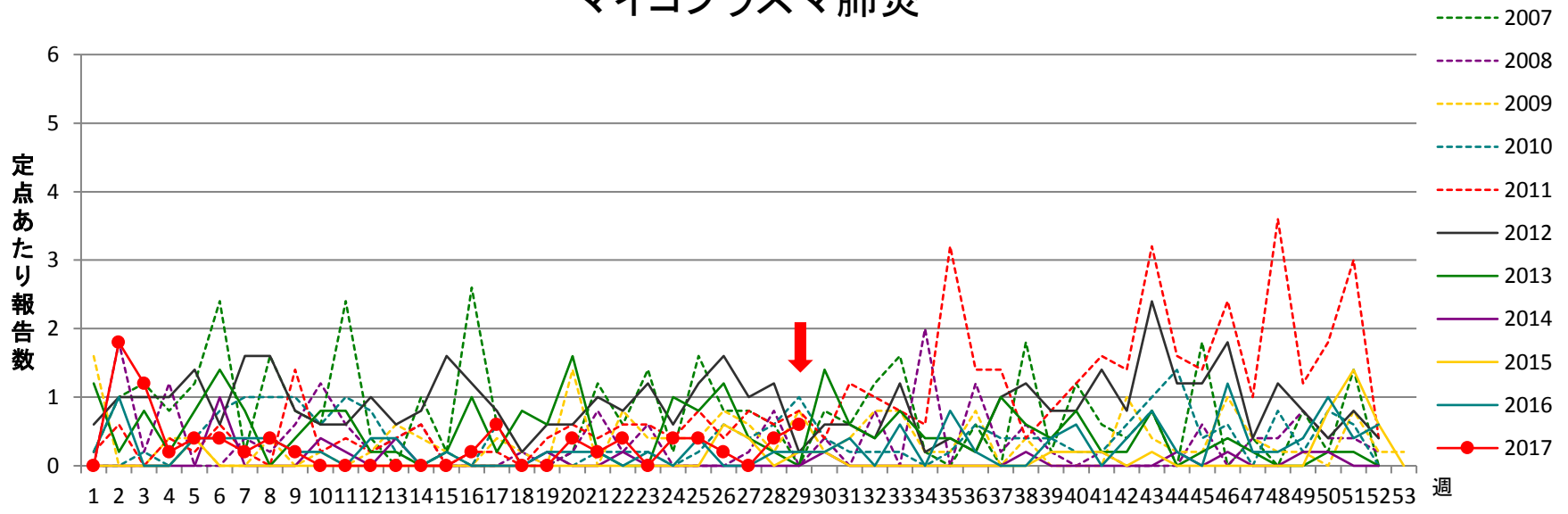
細菌性髄膜炎



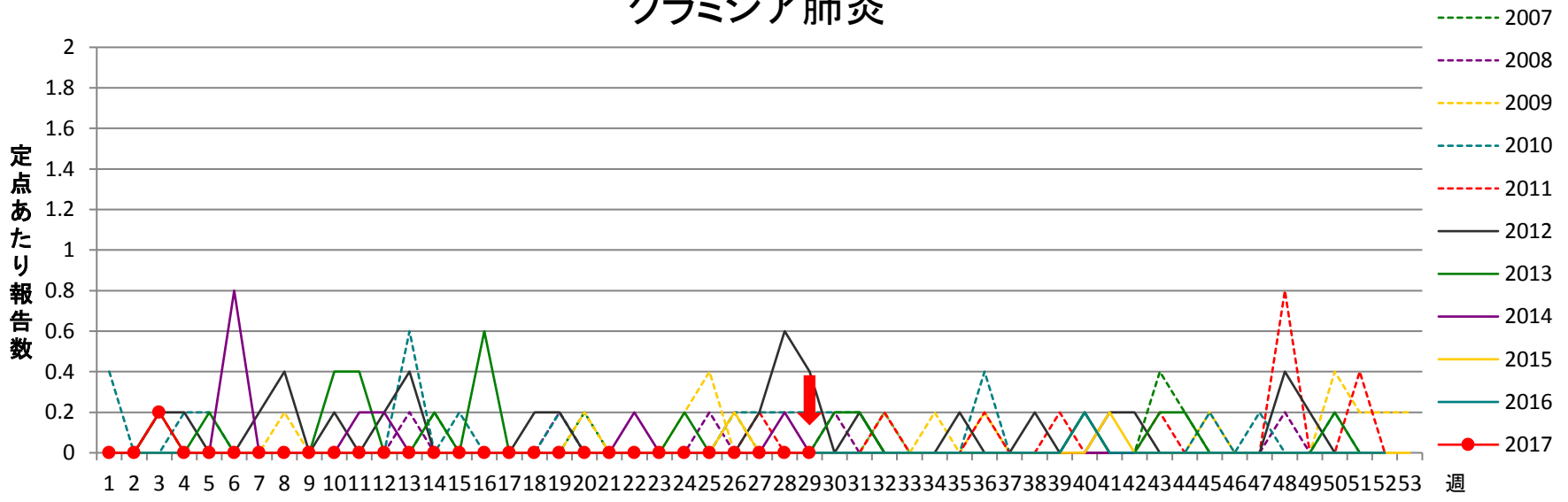
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

